

新大学長に長谷川氏 逆転、再任 選考会議投票で7対3

「密室決定」に非難も

教員有志 受諾撤回求め署名活動

新潟大の学長選考会議で長谷川彰学長の再任が決まってから十日がたつ。学内では、教員らによる第二次意向投票で次点だった同学長が逆転し、同会議が「混乱を避ける」として議論内容を公表しなかったことなどに反発が出ているが、新潟日報社の取材で会議での議論、票決の内容が十五日までに明らかになった。



会議は六日、新潟市で開かれた。学内理事や経営協議会の学外委員計十人（候補者を除く）が、一人ずつ発言。（大学運営の）中期計画は着実に進行している」「両候補の所信調書に大きな違いはない」「二次投票は重要な参考だ」。支持する候補名を挙げずに淡々と述べ合った。協議ではまとまらず、無記名投票の結果、長谷川氏七対三で学部長の山本正治氏三で決着した。

しかし、組合などは学長選考規定の導入過程で、意向投票は「参考」と記されても実質的には尊重されると説明があったと主張。教員有志は十二日から、長谷川氏に再任受諾の撤回を求める署名活動を始めた。

教育人間科学部の教授会も八日、「選考会議の結論は認められない」とする決議を賛成七十六、反対十二で採択した。

学内での反発の背景には、現長谷川体制による大学改革での予算や人事をめぐる不満がある。現体制は独立法人化で集中した権限を背景に、大学改革を推進、学長裁量経費で重点プロジェクトを支援した。国立大学法人評価委員会の評価も高い。長谷川氏の支持者は「今回は中間評価の位置付け。問題なければ二期目二年の続投が当然だ」という。

しかし、二次投票で長谷川氏は次点だった。二年前まで五十万円あった教育研究費が二十万円以下、「教授ポストの補充がなく、昇進に不安」といった不満が表れたとの見方が多い。四年前の学長選で長谷川氏を推した教員も「現場への対話の姿勢が問われた」と批判する。

長谷川氏は六日の会見で「二次の結果は全構成員の理解を求める努力が足りなかったため」と硬い表情で語った。八日には教職員に「改めるべきところを改め、諸改革を継続」とする文書を送った。二期目は来年二月一日から。波風立つ中の船出となりそう

れ、胸などを強く打ち死した。新発田署は業務上過失致傷の現行犯で、トラックを運転していた新潟市有楽、運転手佐藤泉容疑者（四）を逮捕。容疑を業務上過失致死に切り替えて調べている。